

だれかの笑顔のために

人権標語

11月30日（日）に、「第5回和水町人権の集い」が三加和公民館で開催されました。最初に「親子で綴る人権標語」の優秀作品の表彰が行われました。本校からも2名の標語が優秀作品に選ばれ表彰されましたので紹介します。

一人じゃない 君の味方は もっといる (5年生：池田 花さん)

無意識に 放った言葉 つきささる (6年生：有働 莉央さん)



4年前のこの「人権の集い」で、「いのちの大切さ」と題して、菊池市身体障がい者福祉協議会会長の黒田章さんの講演をお聴きました。黒田さんは、交差点で停車中に巻き込まれた自動車事故で片足切断という悲劇に見舞われ人生に絶望されます。家族の励ましなどによって立ち直り、その後は車いすマラソンなどのパラスポーツに生きがいを見出し、再び生きる気力を取り戻し、現在では身体障がい者の福祉向上に日々尽力されています。46歳で車いすマラソンをはじめますが、5年後には大会で優勝、岡山国体でも2種目で優勝するなど成果をあげられている方です。

しかし、それまでには大変なつらい経験をされています。
講演の中で印象に残った出来事を紹介します。

黒田さんが病院を退院されて、はじめて奥さんと買い物に行かれたときの話です。

2歳くらいの子どもが黒田さんを見て、

「あのおじちゃん、足がない。」と言ったそうです。

黒田さんは、小さい子どもの正直な反応だと思われたそうです。

しかし、その後のその子の母親の言葉に衝撃を覚えられます。

その子の母親は、我が子に向かって、

「あなたも悪いことをすると足がなくなるよ！」と言われたのだそうです。

黒田さんは、自分は何も悪いことをしていないのに、なぜそのような言われ方をしなければいけないのかとショックを受けられ、それから外出することをやめられます。

さらに生きる気力を失い、自ら命を絶とうとされたのです。

それを必死で止めたのが奥さんでした。奥さんは、黒田さんをびんたしながら、「事故の時、黒田さんの仕事仲間が無線で呼び掛けあって、黒田さんと同じ血液型の人が何人も集まって輸血してくれたこと」を黒田さんに話し、「その大切な命を無駄にしないで！」と必死で説得されたのだそうです。

黒田さんはそれから「命の重さ」を考えるようになり、生きる気力を取り戻されます。

私たちの心ない言葉が、どれだけ人を傷つけるのかを考えさせられました。

黒田さんが、講演の最後にお願いされました。

『今SNS等で簡単に人を傷つける言葉をつかって、他人を誹謗中傷することが起きている…。

絶対にやめてほしい。』